



民児連 はこだて

函館市民生児童委員連合会広報委員会

令和5年度 第92回全国民生委員児童委員大会



11月21日広島グリーンアリーナにおいて全国から約6千名の委員が集結し、地元高校生による和太鼓演奏で全国大会が始まりました。広島県民生委員児童委員協議会会長の開会挨拶、信条唱和、物故者への黙祷、そして主催者挨拶と続きました。全国民生委員児童委員連合会会長表彰の後、「ボケますから、よろしくお願いします。」でおなじみの信友直子監督が、ご両親の老老介護生活やご自分との関わり、民生委員に救われた経験をお話しくださり、自分もいつか民生委員としてひとの役に立ちたいとの言葉に感動の拍手が会場にあふれました。

全国民生委員児童委員連合会副会長が大会宣言を述べ、次期開催地宮崎県民生委員児童委員会長の挨拶、広島市消防音楽隊のアトラクションの終わりに民生委員の歌「花咲く郷土」を全員で歌い、式典は終了しました。

翌日は7つの活動交流会と2つのシンポジウムに分散しての交流集会が行われ、今後の活動に役立つ貴重な経験を手にすることが出来ました。

(第19民児協副会長 塗 政江)

函館市民児協会長・副会長研修会

令和5年度函館市民生児童委員協議会会長・副会長研修会が2月19日(月)10時30分から函館市民会館小ホールにて、民児協運営等の中核を担っている民児協会長および副会長の資質向上を図る目的で開催されました。

「地域共生社会の推進について」民生委員の役割について(第4次地域福祉計画から)というテーマで、函館市保健福祉部地域福祉課長の金指真弓氏を講師に迎えご講演頂きました。

函館市のこれからの高齢化・少子化の深刻さや町会の加入率の減少など、様々な問題に新たな地域社会をみんなで創る必要性があり、地域福祉を推進するために、社会をつなぐ役割である民生委員がキーパーソンになるというお話しでした。

午後からは令和6年度の事業について、各ブロック・福祉部会ごとに協議を行い、研修内容について計画を立てました。

講演や来年度事業の協議を通して、民生委員活動を来年度も頑張っていこうという思いになりました。

(広報委員 西村亜由美)

令和6年度のブロック部会・福祉部会活動計画案

ブロック部会研修計画

ブロック部会名	日 時	会 場	テ ー マ
第1ブロック(1～6方面) 活性化：第1民児協	6月24日(月) 18:30～	市民会館小ホール	民生委員としての災害時の心構え
第2ブロック(7～11方面) 活性化：第11民児協	9月26日(木) 14:00～	市民会館小ホール	民生委員としての心構え
第3ブロック(12～18方面) 活性化：第16民児協	6月24日(月) 13:30～	市民会館大会議室	包括支援センターの現状とケアマネとの関わり
第4ブロック(18～21,30方面) 活性化：第18民児協	6月19日(水) 10:00～	亀田交流プラザ	防災体験研修
第5ブロック(22～25方面) 活性化：第24民児協	9月18日(木) 14:00～	亀田交流プラザ	CWの役割と民生委員の関わり
第6ブロック(26～29方面) 活性化：第26民児協	5月31日(金) 13:30～	恵山コミュニティセンター	民生委員活動のあり方(グループ討議)

福祉部会研修計画

ブロック部会名	日 時	会 場	テ ー マ
高齢者福祉部会	10～11月予定 13:30～	市民会館小ホール	認知症について学ぶ
障がい者福祉部会	7～9月予定 13:30～	函館視力障害センター	障がいのある方と地域との共生
生活福祉部会	7月22日(月) 13:30～	市民会館小ホール	自立を促すための方策
家庭児童福祉部会	10～11月予定 18:00～	市民会館小ホール	子どもの虐待
主任児童委員交流連絡会		研修会を予定	

広報委員会発行計画

・発行回数 年2回 ・発行日 前年同様4月・11月 ・カラーA4・8ページ

テーマ「生活福祉資金制度に係る 民生委員の方々の役割について」

第2ブロック部会研修会を、令和5年9月15日(金)13時30分より函館市民会館小ホールにて、7・8・9・10・11方面から62名が参加して開催いたしました。

講師は函館市社会福祉協議会の事業課生活支援係 木村氏に依頼し「生活福祉資金制度に係る民生委員の方々の役割について」をテーマにご講話いただきました。

「生活福祉資金貸付制度」とは、厚生労働省の要綱に基づいた貸付制度で、他の貸付制度が利用できない低所得・障がい者・高齢者等の世帯に対する貸付で、必要な相談・支援を民生委員や社協が担い、経済的自立と生活の安定を図ることを目的としています。

相談や借入申請は各市町村の社協で受付して、北海道の社協が実施主体となって運営しています。

《主な貸付資金の種類について》

- ① 総合支援資金
- ② 福祉資金 緊急小口資金
- ③ 教育支援資金
- ④ 不動産担保型生活資金

講話では各資金の詳細と相談・申込みから貸付決定・償還までの支援の流れに沿った民生委員の役割についての説明がありました。

また、教育支援資金について、



「借受人は子どもだが函館を離れている子がほとんどで、親が返済するものと思い、子は貸付を忘れていくことも多く、親が亡くなる」と子の負債となるので、世帯と一緒に話し合う・確かめ合うことが大事である」と具体的なお話もありました。最後に「世帯毎にそれぞれ悩みが違うので一緒に考えていきたい。大切なのは人と人とのふれあいと声かけである」と言葉で結ばれました。

この制度に関する詳しい資料を各方面定数分ご用意頂きありがとうございます。今後の活動に役立てたいと思います。

(第2ブロック部会長

岩山 勝則)

テーマ「函館における児童虐待の現状について」

令和5年度第5ブロック部会研修会が、9月21日(木)13時30分から函館市民会館小ホールにおいて、70名が参加し開催されました。

講師には、函館市子ども未来部次世代育成課要保護児童等支援担当主査 成田香苗氏をお招きしました。

① 子ども家庭総合支援拠点について

② 子どもなんでも相談110番

③ 児童虐待について

④ 要保護児童対策地域協議会

⑤ 養育支援訪問事業

(個別ケース検討会議)

以上の5部構成で、函館市における相談対応の事例、虐待の及ぼす影響や地域でのチェックポイントなどについてご講話いただきました。

質疑応答では、当事者である子どもたちからの相談の具体例に関する質問や、プレママ(初めて赤ちゃんを妊娠している女性)に対しての啓発も必要ではないかとの意見もありました。

最後に、講師から「民生児童委員の皆さんには、これからも児童虐待に対する見守りをお願いします」とのことでした。

(広報委員 橋山 訂)



民生委員児童委員 初任者交流会



コロナ禍の影響で、研修機会がほとんど無かった新任委員を対象に、初任者交流会を行いました。

2つのブロックを一部会とし、いつもとは違うグループ配置で行われました。

第1・2ブロックは11月15日(水)18時30分より、サンリフレ函館の大会議室で、42名の参加者で行われました。1グループ6、7人で、6グループに分かれ、活発な意見交換がなされました。

主な意見として、
各民児協で運営が違うこと。町会・包括の関わり方を知る事ができた。CW・包括等の関係機関との連携の重要性や、自分の出来ることからやれば良い事も理解が出来た。また民生委員の知名度不足を感じたり、業務範囲に関して疑問を感じたり、災害時の連絡体制の確立が必要と思った。等々でした。

第3・6ブロックは11月17日(金)13時30分より、市民会館大会議室で、40名の参加者が7グループに分かれて、活動中の疑問点等に関する意見交換なども行われました。迷うケースも多く見られ、個

人情報の判断や、生保受給者の死亡時の対応、また活動記録の記入に迷った等の意見もありました。グループ討議で活動中の疑問点等に関する意見交換や、今回の形式での研修の継続希望も出されました。

第4・5ブロックは11月15日(水)13時30分より、市民会館大会議室で、46名の参加者が6グループに分かれ、疑問点等話し合いました。在宅福祉委員や包括との線引きや関わり方、活動記録の記入方法や相談内容等の理解不足も出ました。

どの交流会でも共通で出た意見は、今回の形式が良かった事。意見も述べやすく、気軽な気持ちで入って行けたので、今後もこの様式を取り入れて欲しい等でした。

初任者に対しての研修は、いくらか事情が分かった時期での開催も効果的ではと思われるので、是非続けていく事が必要と感じられました。

(広報委員長 中村 啓子)



令和
5年度

道内民生委員児童委員 活動視察研修

10月19日(木)～20日(金)の2日間、令和5年度道内民生児童委員活動視察研修に、船橋民児連会長を団長として広報委員と各福祉部会の委員、事務局を含め21名が参加し千歳市、登別市を訪問しました。

1日目、最初の研修目的の地である千歳市へと小雨の降る中バスで向かいました。研修会場の「千歳市防災学習交流センターそなえーる」ではいろいろな体験学習をすることが出来ます。私たちは、まず「地震体験コーナー」で震度1から7までの揺れを体験し、東日本大震災や胆振東部地震の揺れを疑似体験しました。家具の転倒予防や、窓ガラスの飛散防止フィルムの貼り付けがいかに重要かを実感しました。

次の「煙避難コーナー」では、火災時に発生する煙の特性や危険性を学び、視界のきかない煙の中での避難行動を体験しました。常に避難経路を確認する習慣を身につけることが大事であると、よく判りました。

最後に「予防実験コーナー」では実験装置を利用して、コンセントからの発火現象を見ながら火災の原因を学習しました。トラッキ

ング現象を防ぐためには、定期的なプラグの清掃が有効だということや、ドラムリールはケーブルを全部巻きだして使用しないと発火につながることを知りました。

そして千歳市民生児童委員連絡協議会「子育てサロン」について研修、地元の委員さんたちと意見交換などを行いました。

千歳市の「子育てサロン」では、主任児童委員が中心になり、子どもたちが自由に遊んだり、子育て中のお母さんが時間を過ごせる居場所づくりの取り組みで、地域の子どもたちの見守りや、子育ての不安、妊娠中の心配の相談・サポートを行っているそうです。

千歳市の皆さんとの交流で、他の市町村ではいろいろな活動が行われていることを知りました。

その後、宿泊先の「北広島クラッセホテル」にて交流会を兼ねた夕食会の一泊しました。

2日目は、登別市に移動、研修先の「登別市観光交流センター・スプル」を訪問しました。

登別市民生児童委員協議会の太田通会長の歓迎を受け、同市社会福祉協議会の太田圭佑氏より「社協と民児協との協働」について研

修を受けました。登別市では、「第4期きずな計画」を策定して、8つの小学校区ごとに住民同士が支え合う生活支援や介護予防に関する取り組みを進め、孤立の防止を目指しているそうです。具体的には「タブレットつながり事業」や、コロナ禍での「ささえあいメッセージプロジェクト」など独自の活動の事例が紹介されました。

特に印象に残った点は「まごころお届けプロジェクト」で、これは広報誌「まごころレター」を作成し、民生児童委員や町会などが訪問のきっかけとながりの維持に活用するというものでした。コロナ禍にあっても可能な支援を探ろうとする真摯な姿勢に感銘を受けました。

そして一行はバスに乗り雨の中帰路へとつきました。夕闇の迫る函館に到着し、無事2日間に渡る研修を終えました。

(広報委員 楢山 訂)



テーマ「障がいのある方と地域との共生について」

令和5年10月16日(月)13時30分より函館市民会館大会議室にて障がい者福祉部会研修会を参加者101名で開催しました。

まず大淵ふさ子部会長の挨拶があり、野刈博子副部会長による進行でスタートしました。

今年の研修会は、「障がいのある方と地域との共生について」(函館市の障がい福祉サービス等の現状)をテーマに、函館市保健福祉部障がい保健福祉課相談支援・精神保健担当主査 芳村文博氏から講演をいただきました。

障害者手帳には「身体障害者手帳」「療育手帳」「精神障害者保健福祉手帳」の3種類があり、手帳種別により都道府県知事や中核市の市長(函館・旭川)から交付されます。



申請窓口について「身体障害者手帳」「療育手帳」は市役所障がい保健福祉課のほか、各支所に必要な書類を提出しますが、「精神障害者保健福祉手帳

」は湯川・銭亀支所は除かれるとのこと。

函館市の令和2年度～4年度まで3年間の障害者手帳所持者は平均18,155人になるとのことでした。また、障害福祉サービスを利用

するために必要となる障害支援区分の認定については、医師意見書の一次判定から、二次判定(市町村審査会)を経て、判定されるそうです。

障がい福祉サービスは、障がい種別や程度等から多岐にわたり、必要なサービスを利用いただいているとのことでした。ただし65歳以上の障がい者は介護保険が優先されるそうです。

最後に、研修会を企画・準備された障がい者福祉部会の皆様と、わかりやすく講演していただいた芳村講師に感謝を申し上げます。有意義な研修会をありがとうございました。

(第28民児協副会長 村田 朗)



テーマ「みんなで気をつけよう特殊詐欺」

令和5年度高齢者福祉部会研修会では「みんなで気をつけよう特殊詐欺」をテーマとして、10月18日(水)13時30分より函館市民会館小ホールにて参加者116名で開催致しました。

当日は北海道警察函館方面本部生活安全課長、北海道警視 紺野義広氏を講師に迎え、「特殊詐欺の被害防止対策について」映像を交え、幅広く講演をして頂きました。

「特殊詐欺」とは、相手と対面することなく不特定多数の者から現金等をだまし取る犯罪を言います。主な手口としては、オレオレ詐欺、架空料金請求詐欺、仮想通貨等による投資詐欺等、手口は様々です。被害者も男女問わず幅広い年齢層で発生しています。中には道内でも投資目的で50代女性が1億円を超える被害額も出ています。また被害者の共通点の1つとして、自分1人で対応しているようです。1人でこっそり大儲けしようという心理が働くのでしょうか。まずは、一度電話を切って対応されることを強調されました。「詐欺電話が来たら#9110」です。

また特殊詐欺の電話のほとんどが自宅の固定電話にかかってくるため、NTT東日本と北海道警察がタイアップした被害防止策の取組として「ナンバーディスプレイ及びナンバークエストの高齢者無償化受付」と「電話番号の変更に関する工事費の無償化」を行っております。詳細情報やお問合せ先は、NTT東日本特殊詐欺対策ダイヤル「0120-722-455」となっております。

講演終了後に質疑応答を行い、特殊詐欺についての認識を新たにされた有意義な研修会となりました。

(高齢者福祉部会長 三田 信宙)



テーマ 「子どもの虐待予防」

令和5年11月14日(火)18時30分より、函館中央病院小児科科長石倉亜矢子先生を講師に迎え、「子どもの虐待予防」～それは「困った」と言ってもらえる関係性から」と題して、函館市民会館小ホールで、107名の出席のもと開催されました。

2019年、札幌市の虐待事例（2歳児衰弱死）を元に、医療としてはどの場面に関われたら救えたのだろうかというお話がありました。

虐待をする親は、親自身が育ってきた学童期や青年期の養育環境が大きな要因として考えられます。また、親の心理的・精神的問題（身体的心理的虐待の既往、ネグレクトの既往など）や養育能力の低さなどが虐待死の要因につながっていることが多いようです。さらに、養育に困っていても「たすけて」と言いづらかったのかもありません。

そこで、子供たちを虐待から守るためには、親が心理的・精神的に安定していることが大切になると思います。

そのためには、地域として民生児童委員として、どの場面でも「困った、たすけて」と言って

もらえるように、子育てでつまずくかもしれない人に寄り添い、さらに伴走者としての役割を担っていったほしいとのことでした。参加者は、これからの活動に生かすべく、真剣に聞いていました。（家庭児童福祉部会長 中村ひでの）



お知らせ 函館市民児連への 助成金について



函館市民児連の活動事業に対して、次の団体から毎年、助成金が交付され感謝申し上げます。
令和5年度の助成金交付額は、次のとおりです。

※相馬報恩会 400,000円
※杉崎福祉財団 320,000円
※函館市社会福祉協議会 106,000円

新型コロナウイルス感染症の5類移行により、研修会等も中止することなく開催されるようになりました。交付頂いた助成金は、民生委員児童委員の実践活動に役立てるため、全道の研修会参加や、函館市でのブロック部会・福祉部会研修、初任者交流会の開催、また民生委員制度の啓発活動に大切に使用していただきました。
ありがとうございました。

（民児連事務局）

編集 後記

◎世界的な気候変動など不安要素は日々高まっていますが、民生委員児童委員の皆様には、健康に留意して活動していただきたいと思えます。昨年、函館市美原で最高気温が観測史上最高の35.4度となりました。「喉元過ぎれば熱さを忘れる」と成句が頭に浮かんできました。暑さは訪問見守りなど民生委員の活動にも影響を及ぼすものと思われまます。

◎令和6年度の各ブロックと福祉部会の事業計画も出揃いました。第83号発行に際し、お忙しい中、寄稿下さいます感謝申し上げます。ありがとうございました。

（広報委員長 稲村 耕三）

発行所 函館市民生児童委員連合会
広報委員会

〒040-0063 函館市若松町33番6号
函館市総合福祉センター3階
TEL (0138) 26-8306

発行責任者 会長 船橋 優子
印刷 (株) 島本印刷
TEL (0138) 25-1201

令和5年度 活動写真集



令和5年7月
道民児連活性化事業指定(第5民児協)
「みんなつながるフェスティバル」



令和6年1月 厚生労働大臣表彰
第19民児協 佐藤さん(左)
第10民児協 本間さん(右)



令和5年9月 民生児童委員パネル展



令和5年10月 赤い羽根街頭募金協力(キラリス前)



令和5年9月～令和6年2月
函館バス戸袋広告



令和6年1月
函館市民生児童委員連合会新年交礼会